

笑ってごらん

第 649 号 2019. 3. 18 発行

～今日の格言～

日常化した毎日が心地よくなったときこそ、
違ったことを行うよう自らを駆り立てる必要
がある。
(ピーター・ドラッカー)



平成 30 年度ももうすぐ終わろうとしている。毎年この時期になると「月日の経つのは早いな」と感じている。(年のせいかな?)

さて、皆にとってこの一年はどんな年だっただろうか? 充実していたか? それとも…。いづれにせよ、時は後戻りしないことは事実なので、これから先を見つめて確かな歩みを重ねていかなければならない。

振り返ってみれば、今年度も様々なことにエネルギーを注いできた。

雨天続きのために体育館での実施とした体育大会、体育館に 2,800 人が入り床が抜け落ちそうになるくらい盛りあがった同窓会との合同芸術鑑賞会 C&K コンサートなど、学校として「初」の取り組みもあった。

また、南さつま市飛びたて高校生事業は今年度 2 年目であったが、M ‘マガ、かぼちゃスイーツ、サイクリングマップの 3 事業に

ついて、今年度も素晴らしい取り組みができた。

先日、本坊市長へ事業報告に出向いた際、市長からも出来栄えや取り組みに対して賛辞を得た。

事業に携わった生徒たちは、日頃の学習活動の傍ら、こうしたモノ作りに精一杯取り組んだことで、得難い経験をしたことと思う。今後も自分力を発揮し、様々なことにチャレンジして欲しい。

2 月 10 日および 3 月 17 日に入学説明会を実施した。「高校生活も頑張るぞ!」との決意に満ちた表情で臨んでいる様子が頼もしかった。

一方で、高校生活に対する不安を抱えているであろうことも感じ取れる。4 月以降、ぜひサポートをしてあげて欲しい。

総じて、この一年間の皆さんの諸活動に感謝し、来たる 2019 年度 (5 月から元号が変わるので、この表現とした) も皆さんの

キラキラ輝く活躍を目にすることができたら幸いである。

спасибо 谢谢
GRACIAS 谢谢
THANK YOU
ありがとうございました MERCI
DANKE धन्यवाद
شكراً OBRIGADO

少し前の話になるが、二月初旬、サッカー指導者西野朗氏のトークショーを聴きに行った。

西野氏はワールドカップサッカーにおいて日本チームの監督として選手を率いた。

「これまで厳しい練習に耐えてきた選手を何としても決勝トーナメントに連れて行く」思いで戦い、一部バッシングを受けながらも当初の目標は果たせた。

選手全員の『多様性・多機能性』を重視し、「減点法ではなく加点法」で選手たちに対峙し、できていないことよりもできたことに目を向ける指導を心掛けた。

そして、「自分が活躍したいのであれば、情報を分かち合う・共有することが大切だ」と話し、風通しの良いチーム状態の維持に努めたという。

また、大会期間中海外にいる選手たちは、試合の最中の自分の動きや日本人サポーターの応援の様子を目にすることができない。そこで、近年はモチベーションビデオを作成し、移動前に見せるのだそうだ。(今回も効果絶大だったようだ。)

「大会直前の監督就任で、あまり期間のない中での取り組みだっただけに反省も多い」と語った西野氏。今後はこれまでと異なる立場でサッカーを支援していくという。貴重な話を聴くことができた。

